

カンピ・フレグレイ (Campi Flegrei)

実習1日目(6月22日)に、ナポリ近郊のカンピフレグレイを訪れた。カンピフレグレイはイタリア語で燃える平野という意味をもち、この地域全体がカルデラ火山にあたる。まず、Pozzuoliの市街地の中にある Vulcano Solfatara という爆裂火口に向かった。



Solfatara の位置 (<https://www.openstreetmap.org> より) と火口内の様子

近年、カンピフレグレイは全体的に地盤の膨張が観測されるなど活性化が認められている。Solfatara でも活発な噴気活動や熱水活動を観察された。主な噴出孔は5ヶ所程あり、泥火山も2ヶ所確認することができた。Solfatara 中央にある沼でも、ガスの噴出に伴うと考えられる泡が確認できた。また、Solfatara には、古代ローマの人々が用いていた井戸やサウナといった建築物も残されており、この地域の人々が古くから火山活動に伴う蒸気や熱水を生活や健康管理に利用していたことを学ぶことができた。



Solfatara 火口内にある熱泥噴出地 (左) と噴気地帯 (右)

Solfatara から徒歩で30分ほどのところには、昔の神殿(市場という話もある)にあたる建築物が残ってる。現在は海から少し離れているが、よく観察すると、柱の根元付近に黒く貝殻が張り付いていることが確認できた。このことは、陸地で神殿が建築された後に地殻変動などの影響で海水面が上昇し、一定期間神殿が海水に浸かったことを示している。遺跡の

ある観光地というだけでなく、数千年前の海水面の変動を知ることができる貴重な場所であった。



Macellum Temple of Serapis



貝殻のついた柱

ポンペイ (Pompei)

実習2日目(6月23日)に、ポンペイ遺跡の見学と露頭の観察を行った。ポンペイは、AD79年に発生したベスビオ火山の噴火により火山灰に埋まり、街全体が当時のまま保存された状態で発掘された古代遺跡として有名である。



ポンペイからベスビオ山を望む

イタリアの有名な観光地のひとつではあるが、ヌーチェリア門近くで火山灰の露頭を観察することができる。2ヶ所ある露頭はどちらも軽石、火山灰、スコリアの層が互層になっていた。火山灰の層が数cm~数十cmと比較的厚く、その間にスコリアや軽石の層が数mm~数cmと薄く堆積していた。さらにもう一つ、この近くの露頭には柱が埋もれているのを観察することができた。



ヌーチェリア門近くの露頭

ポンペイ遺跡の建築物にはレンガや石が使用されているが、柱や壁を良く観察してみると空隙の多い（穴が多い）石が多く、火砕岩が建築物に利用されていることがわかる。このことから、ポンペイ周辺では、ポンペイの街ができる前にもベスビオ火山をはじめとした火山噴火が何度も発生していたと考えられる。



空隙の多い岩石が使われるポンペイ遺跡の建築物

(担当 森)